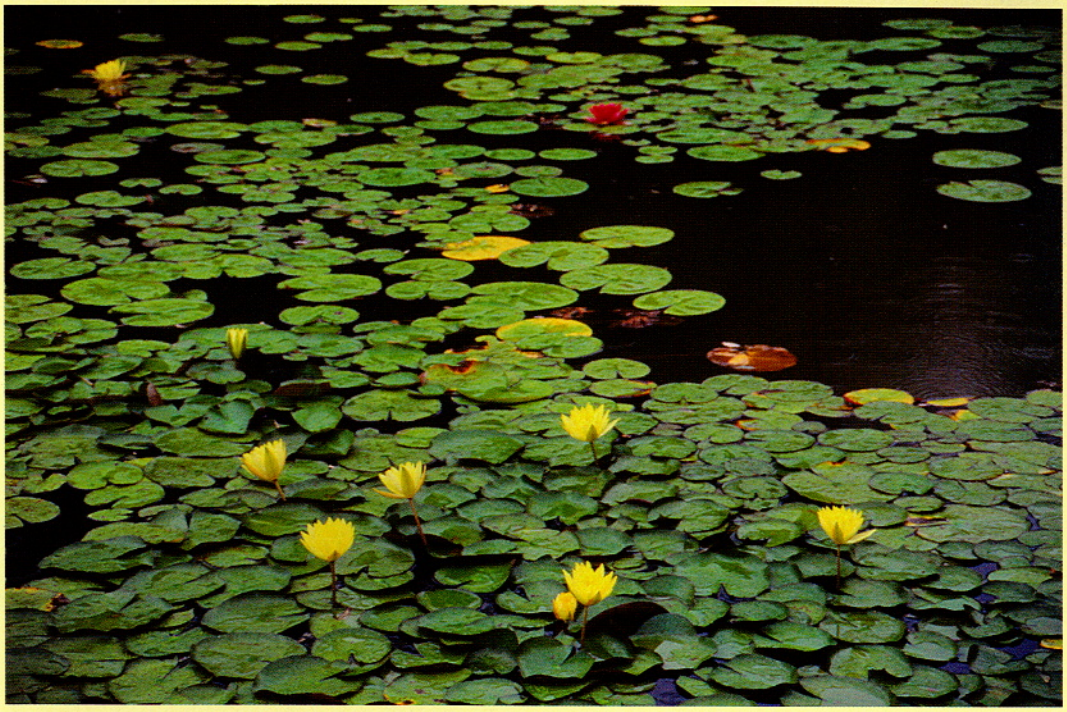
思いつめずに、いっしょに話そう!!

社会福祉法人

香川いのちの電話 通信

第56号

相談電話 みみをかたむけなやみゼロ 087-833-7830
FAX相談 むつんでいちばんしみじみ 087-861-4343
（24時間年中無休）



すいれん（三木町） 写真提供 宮武則明

第30期「電話相談員養成講座」の応募に男性を期待！

理事長 小島 克己

香川いのちの電話は、本年10月に開局26周年を迎えます。これまで第一線で支えて下さった相談員の皆さまをはじめご指導・ご支援賜りました関係各位の方々には心から感謝申し上げます。

現在、全国で50センターが開局していますが、24時間電話相談を受けているセンターは未だ半数という状況の中で、香川では15年前に「眠らぬダイヤル」24時間態勢に移行しました。しかし、24時間態勢を維持することは容易ではありません。特に夜間・深夜帯の午後9時から午前6時までの9時間を3交替（3時間/1回）で担当する相談員の確保は最も大きな課題です。こうした中で期待されるのが男性の相談員です。

一方、定年退職後、人との繋がりが薄くなり社会や家族から孤立することで孤独感や疎外感を持ちながら老後を暮らす男性が少なくないと聞きます。生きる力は“自分が何かに役立っている”という気持を持ち続けることだと言います。いのちの電話の相談員は、電話の声のみで相談を受けることになります。

コーラーから悩みを打ち明けられ真剣に向き合った時、自らの存在感や生きがいを発見し、さらにそうした悩みや苦しみと向き合う相談員同士の交流を通じて“自らの人生を見つめ直し、より豊かにする活動”と言っても過言ではありません。

一人でも多くの男性が次年度の電話相談員養成講座にチャレンジされることを心から期待をしています。

【香川いのちの電話相談受信状況】

開局からの電話相談受信状況

1984年10月6日～2010年5月31日（25年7ヶ月）

開局からの受信総件数…420,920件

開局からの相談総件数…251,250件

半年間の電話相談受信状況 2009年12月1日～2010年5月31日（6ヶ月）

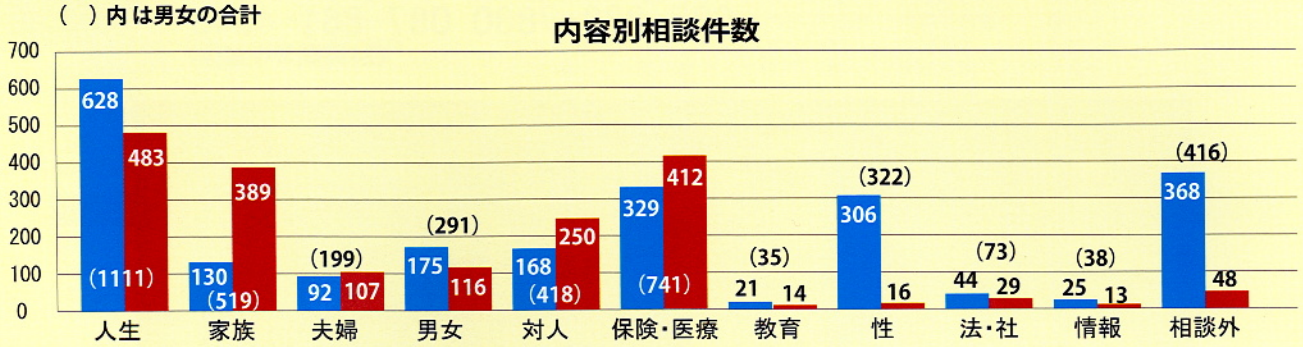
相談件数……4,162件（男2,286件　女1,876件）

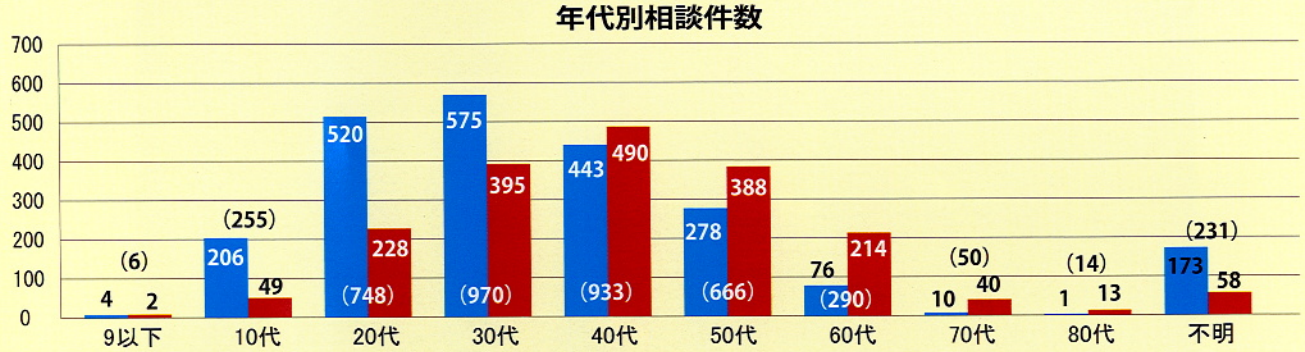
自殺志向件数……358件（男164件　女194件）
相談件数の8.6%

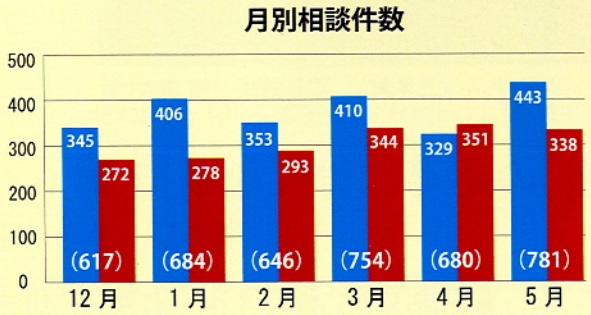
フリーダイヤル相談件数……367件（男216件　女151件）

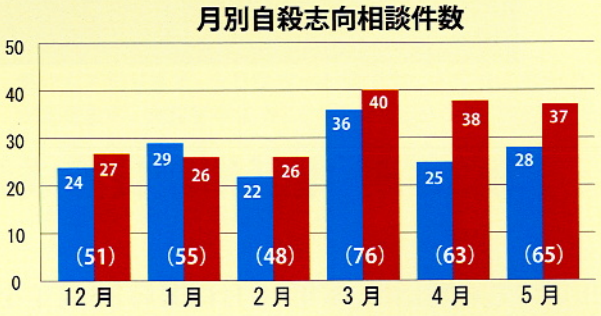
フリーダイヤル自殺志向件数…145件（男83件　女62件）
相談件数の39.5%

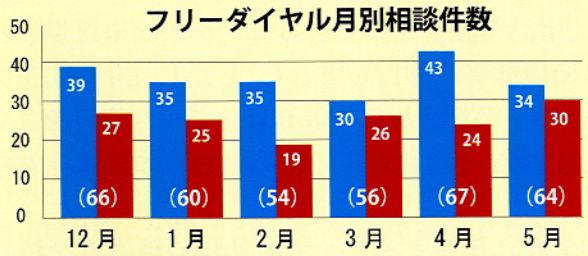
男■　女■
（　）内は男女の合計

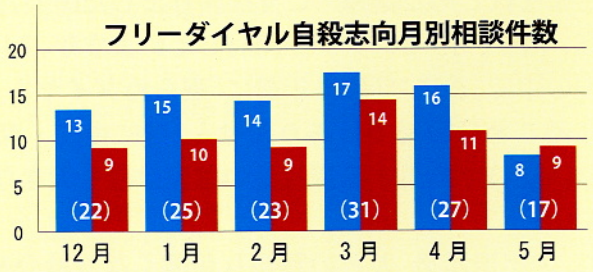




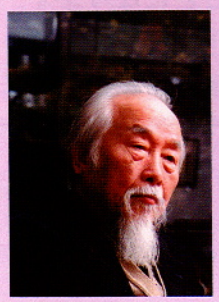








平成22年度　香川いのちの電話公開講座



生きることの意味
―ぼくは12歳―

講師
高 史明 氏
（こう しめい／コ・サミョン）
作家・評論家

2010
11/6（土）
開演 13：30～15：00
サンポートホール高松

参加費 500円
（当日 600円）
手話・要約筆記あり

香川いのちの電話協会
第30期
電話相談員 募集
2011年4月から講座開始
いのちを大切に生きるためのこころの支え手として、
あなたもこのボランティア活動に参加しませんか。
＊まわりの方に勧めてください

柳田邦男氏の公開講座
「いのちを支える言葉」を受講した方々より

香川いのちの電話公開講座

「いのちを支える言葉」

講師：柳田 邦男 氏
（やなぎだ　くにお）

ドキュメンタリー作家・評論家

【開校日】 2010年1月31日（日）
【場　所】 サンポートホール高松

柳田邦男氏　プロフィール

NHK記者として14年間報道の仕事に携わった後、フリーの作家活動に入る。
現代人の「いのちの危機」をテーマに、ノンフィクション作品や評論を数多く発表されています。最近は終末期医療、医療事故、脳死問題、心の危機、言葉の危機、少年問題、少年事件、絵本の重要性などについての執筆・講演活動が注目されています。最近では厚生労働省の「脳死下での臓器提供事例に係る検証会議」のメンバーとして臓器移植法改正案を審議する参院厚生労働委員会で参考人として質疑に応じられた。臓器を提供するドナーや家族と、提供を受ける患者や家族。それぞれの生と死に寄り添う議論の必要性を訴えられた。

人生には時として困難な状態になる時があります。でも、そのとき悲観的にならず、前向きに前進する気持にさせて頂いた、柳田先生のあたたかい言葉、絵本の説明、もっともっと聞いていたかったです。寒い日でしたが、とても心があたたまり、ホッとした一日でした。

＊＊K・H＊

柳田先生の本を前に読んだことがありました。人間とは深く深く悩み、又悩みを解決する手段を探し求める生き物だと思ったのを覚えています。以前の私は柳田先生の本の中から「人間とはそんなもんだ」という感想を持っただけでした。しかし今回の講演で話を聞いて人間の心とはもっと不思議であり、自分から表現することにより貯めこむだけではなく見つめることが出来る。それにより生きていける。と言うことを知りました。「表現手段を持つことにより生きなおす力が持たされる」と言うのは私の中で新しい感覚でした。自分をまず見つめることが出来たら、他の人への共感もより深いものになるのでないかと思いました。素晴らしい日でした。有難うございました。

＊＊H・Y＊＊

サンポートホール満員の聴講者が講師の話にシーンとなって聞いていることに感心しました。生きものの中で人間だけが持っている言葉に「人を幸せにしたり喜ばせたり、傷つけたり」とさまざまな側面がある。辛い立場でよりそうことが出来るのか。どう言う言葉で接すれば良いのか、考えさせられました。障害があっても、病気になっても力強く生きぬいている人の姿勢は、私に勇気を与えてくれました。子供は大人の言うこと（心）は分かっている。「言語化されないだけ」よく理解できます。涙が止まらない話題の紹介ばかり、良い話を有難うございました。講師の本を読みたくなりました。

＊＊K・K＊＊

先生のお話を聞いて言葉がどれだけ人に大きな影響を与えるか良く分かりました。私も今までに仕事や子育て等の転機や悩んでいた時にかけてもらった言葉で本当に救われた気持になったり、方向性をみつけることができたことを思い出しました。先生が最後に紹介して下さった絵本の話も印象的でした。先生が地域で取組んでおられる活動も素晴らしいものだと思いました。特に今から日本を背負っていく子供達には是非絵本や親子地域のかかわりの中で素直で綺麗な心を持った大人になって欲しいと感じました。先生の講演の帰り電車で同じ封筒を持っておられる高齢の男性に声をかけられました。その方は愛媛県の宇和島から1時間40分かけて今日の講演を聞きに来たと告げられ「あのような素晴らしい考えを持っている人がいてると言うことは日本も捨てたものではないなぁ」と言っておれました。聞くとお歳は84歳との事でした。これから私もまわりの人に少しでも力になれるような言葉がけができるよう日々勉強し気づきのある生活を送りたいと思います。貴重なお話を聞けて本当に良かったと思います。有難うございました。

＊＊A・O＊＊

10数年前に柳田氏の「犠牲」を読んだ。その時はあまりの重い内容に心が苦しくなったことを覚えている。犠牲は、まさしく誰かの為に何かを失くすこと、生から死へと言う頁の意味にしか感じ取れなかった。しかし今回氏の講演を聞いた後、改めて読み返してみると犠牲とは誰かの役に立つこと、まさしく いのちを引き継ぐ死から生なのだと息子さんのいのちを伝えたかっただと目の前に一筋の明かりを見たと思いです。何が今一番したいか。私はやっぱり何でもいい人の役に立てることをしたい。こうした思いを改めて知らされた講演会でした。今後、いのちをつなぐ子供達へ紹介された絵本も読んでみたいです。

＊＊R・K＊＊

講座当日、足元が悪いにもかかわらず私の予想を超える受講者数に驚きました。会場のサンポートホール高松、私にとっては初めて入る所ですが、1階はすでにほぼ満席、2階はかなり埋ってきている状態でした。私は3階にすわり受講しました。ステージまで遠いため柳田先生のお顔がはっきり見えませんでしたが、会場全体が見渡すことができ非常に一体感を感じる席でした。また会場に入りきれず、ロビーのモニターで受講されている人が多くおられたことかから、この講座の注目度や期待度を強く感じました。先生は絵本を非常に重要視されていることに非常に興味を持ちました。私にとって絵本はイコール昔話の本ぐらいにしか印象がなかったからです。柳田先生の色紙に書かれていた「大人こそ　その真髄を読み取れる」の言葉どおり、幼い頃、若い頃、親しんだものは時を経た後その神髄を見抜けるものかもしれません。

＊＊N・T＊＊

人と人との関わりの中で一番大切なもの。それはお金でも、地位や名誉でも家でも、 物でもなく「優しい言葉」なのだと感じてはいたのですが、先生のお話を聴いて確信いたしました。ALS患者さんのお話の中で、 寝たきりで人工呼吸器をつけている状態でも「私はまだ泣くことができます」「私はまだ犬のようにキャンキャン吠えることができます」「闇の中でも深海魚のように生きぬくことができるかも知れない」と自分と向き合い前向きに考えて、 志高く生きている人がいるのだ。衝撃でした。絶望の中での生きようとする力。それはその人の周囲の人達の「いのちを支える言葉」と愛情があればこそ生まれるもの。当たり前のようですが改めて気づかされました。正直なところ、 そういう状態であれば死んだ方が楽なのでは。本人はその方が幸せなのでは。と思っていました。間違っていました。「闇の中でも深海魚のように生きぬくことが出来るかも知れない」なんと立派な生き方でしょうか。その人とその周りの人に感銘を覚えました。「たったひとつのいのちだから」いのちあることに感謝し、周囲の人達にも、電話の向こうの悩める人にも「たったひとつのいのちだから」と優しく言葉がかけてあげられるよう、今日の衝撃を忘れないでいたいと思います。有難うございました。

＊＊H・S＊＊

～ご芳志に心から感謝します～

2009年12月～2010年5月

後援会費（1,080,348円）

NTT西日本電信電話株式会社
カトリックスペイン外国宣教教会
有限会社　絆
株式会社　二蝶
聖マルチン修道院
高松信用金庫　総務部
特定非営利活動法人長寿社会支援協会
とみおか内科クリニック
日生開発（株）耕心会
日本基督教団高松教会
有限会社　ユービル企画
株式会社豆芳

浅山ミヤコ　川西五月　酒井恵子　玉男木美知子　濱野瞭子　眞鍋夏海
安部由紀子　北尾登史郎　島津昌代　千葉正子　林めぐみ　水卜令子
安藤千代　衣川則子　清水和美　津郷千恵　平岡邦江　三野紀美子
石川久美子　木下則子　白井　愛　寺岡恭仁子　広瀬恵子　宮武　宏
内田三枝　轡見圭子　白川早苗　土居忠行　藤野典保　室崎若子
浦井英子　熊野琴美　竹田万里子　童銅奈津美　藤原光子　矢野坂春子
榎本大子　鞍井　孝　田中　茂　中村嘉子　舩城　勝　山下真須子
大石　剛　黒川鈴子　田中三郎　南雲正義　古澤光子　山下律子
尾形房子　黒河内美鈴　田中典子　橋本順子　増田芳子　山本泰江
岡百合子　小西英毅　田中良子　蓮井孝夫　松崎ミツ子　吉村崇彦
梶　由美　斎中佳子　谷本澄江　花田チエ子　松本由子

寄付金（386,008円）

カトリック桜町教会
株式会社　トーカイ
社団法人　香川県断酒会　細川一雄
社団法人　香川県断酒会　有志一同

石原寛治　小島克己　千葉正子　南雲正義　松崎ミツ子　柳田邦男
岩崎廣明　佐藤正子　津郷千恵　西野信子　眞鍋夏海　矢野坂春子
大林ミサエ　島津昌代　冨岡幸生　蓮井孝夫　三好美也子　吉岡敬子
鞍井　孝　田中暉彦　中村嘉子　平田真貴子　室崎若子　吉村崇彦

支援者を訪ねて ⑨

（株）豆芳　代表取締役

近藤和正氏

ー長年香川いのちの電話にご支援をいただきましてありがとうございます。

ひょうげ豆は香川を代表するお土産の一つですが、創業はいつごろから。

創業は昭和22年上海から帰国した父が始めました。まだ食料が十分でなかった頃でしたが最初は落花生を主に扱っておりました。

ー香川にはひょうげ祭りがありますが何か関係がおありなのでしょうか。

香川町に父の友人がおりまして、香川町に古くから伝わっていたひょうげ祭りにちなんで豆菓子をお土産用にしていましたが、そこから少しずつ工夫して現在のひょうげ豆になりました。

ー昔食べ物の不自由なころ、海水浴のとき、炒った空豆を袋に入れて持ってよく食べました。懐かしいですね。

しょうゆ豆も作ってらっしゃるのですね。

香川は空豆の産地ですから、どの家庭でもしょうゆ豆は作っていました。昭和40年代三越でお土産用として販売するようになりました。そのときに和田邦坊さんが「豆屋近藤商店」を、父の名前「近藤正芳」から「豆芳」と名づけてくださってお土産用の包装用紙を描いてくださったのです。今も大切にしております。

そうですね。現在の豆芳になるまでにはいろいろとありました。

ー何か新しい製品をお考えでしょうか？

私はいろいろ新製品のアイデアを出しますが、商品化するのはなかなか難しいですね。最近は景気が悪くなったので、少人数でボツボツやっています。

ー堅実にされる事はだいじなことだと思います。

ご寄付いただくようになりましたのは？

30歳ごろ、腎臓が悪くなって入退院を繰り返しておりまして、そのことから軽いうつになったりととても苦しい時期がありました。腎臓移植もいたしましてそれからおかげさまで元気にしております。うつはなった者でないと分からない部分があります。自殺を考えることもありました。私にはいい仲間がいましたので、誰にも話せないで苦しんでいる人が多くいます。その人たちが相談できるところがあればなあと思ったのが香川いのちの電話でした。

ー香川いのちの電話が開局して間もなくご支援いただいておりますが、25年になります。長い間本当にありがとうございます。

私がするのはほんの少しでお恥ずかしいくらいです。

ーいえいえ、ボランティアの私どもにとって、変わらぬご支援が何よりうれしいことで励みになります。感謝申し上げます。今日は本当にありがとうございました。

虫などが入らないように、大きい昆布のようなのれん？をくぐって事務所へ、帰りに製品を作っておられる横を通りましたがこじんまりと清潔にゆき届いた工場でした。社長さんをはじめ皆さんの社長を中心に家庭的な温かいものを感じました。

（広報担当：吉岡）

宮武則明プロフィール（2006.6より写真提供者）

高松市円座町在住。元讃岐写真作家の会所属。現在「ギャラリーMON」（朝日町）において定期的に作品展を行っている。写真集「讃岐の町並」讃岐写真作家の会著ほか9冊発刊。「香川の歳時記365日」四国新聞に写真提供。現在も活躍中。

発行所　社会福祉法人 香川いのちの電話協会
〒760-8691　高松市中央郵便局　私書箱152号
事務局 電話（087）861-7065
発行人 小島 克己　　編集 広報委員会